



～平成30(2018)年度 全国学力学習状況調査結果報告～



1. 全国学力学習状況調査について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

2. 調査内容

小学校においては国語科、算数科に関する調査で、今年度は3年ぶりに理科の調査も行われました。主として「知識」に関する問題(A問題)と主として「活用」に関する問題(B問題)、児童の生活習慣や学校環境に関する質問紙調査を実施しています。

3. 結果についての考え方

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

4. 調査結果の分析

(1) 全体傾向

教科全体の傾向としては国語がA問題は全国値をやや上回り、B問題は全国値とほぼ同じでした。算数においてはA問題・B問題ともに全国値を上回り、理科は全国値をやや上回りました。



(2) 国語について

<A 主として知識に関する問題>

設問を観点別に分けると「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」「知識・理解・技能」の全てにおいて全国値をやや上回っています。



<B 主として活用に関する問題>

同じく設問を観点別に分けて見ていくと「話す・聞く能力」は全国値をやや上回り「関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」はいずれも全国値をやや下回っています。

<国語における課題点>

A問題で正答率が低かったのが、「文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く」という問題で、主述関係を表した4つの文から「反省点は用具の手入れをあまりしませんでした。」という文が誤りだと答える問題です。本校児童の誤答の中では「今年の春休みはとても充実したものとなりました。」を誤りとしたものが一番多かったです。「充実したもの」という表現に慣れていないことがわかります。また、無回答率の高かったのは漢字を書く問題で「かん理」の「かん」と同じ漢字を「かん成」「警察かん」「試験かん」の中から選ぶ問題、「せ極的」の「せつ」と同じ漢字を「面せき」「成せき」「せき任」の中から選ぶ問題でした。B問題では文章を創作する問題で、① 資料メモの中から言葉や文を取り上げて書く ② テーマにふさわしい文にする ③ 指定の書き出しの言葉に続き50字以上80字以内で書く という3つの条件を守って書くというものです。本校児童の誤答では①で取り上げるべき二つの言葉のうち一つしか使っていなかったというものが多かったです。



(3) 算数について

<A 主として知識を問う問題>

「数量や図形についての技能」では全国値を上回り、「数量や図形についての知識・理解」においては全国値をやや上回りました。

<B 主として活用を問う問題>

「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」のどちらにおいても全国値を上回りました。

<算数における課題点>

算数Aでは多くの項目で全国値を上回り、図形の中の角度を180度と答える問題ではほぼ全員が正解しています。正答率の低い問題では「16人が8㎡に、9人が5㎡に居るときの混み具合」を求めようとした計算結果の「 $16 \div 8 = 2$ $9 \div 5 = 1.8$ 」をどう見るか」という設問で、本校児童の誤答では答えの「2」「1.8」を人数ではなく面積だととらえ「1人当たりの面積が2㎡と1.8㎡なので1.8㎡のほうが混んで

いる」としたものが多かったです。また、円周率を求める式を選択する問題で、正答は「円周の長さ÷直径の長さ」であるところを「円周の長さ×直径の長さ」とした児童が多かったです。



(4) 理科について

<全体的な結果>

「自然事象への関心・意欲・態度」では全国値をやや下回り、「科学的な思考・表現」では全国値を上回りました。「観察・実験の技能」では全国値をやや下回り、「自然事象についての知識・理解」では全国値をやや上回りました。

<理科における課題点>

無回答率が11.1%と高かったのは「食塩水を蒸発させたときに水だけでなく食塩自体も蒸発するかどうか」を確かめる実験で「食塩自体は蒸発しない」とした結論は正しくないものと規定し「正しく書き直しなさい」と指示するものでした。記述式なので書きにくかったということと、食塩も蒸発するということがデータを根拠として理解できていないと書けないため、回答しなかった児童が多かったものと思われます。作文することと、資料を活用することに課題が残りました。

(4) 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙の結果）

〔自分自身について〕

「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対しては肯定的回答が全国値を下回りましたが、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対しては全国値を上回っています。また「学校のきまりを守っていますか」という設問に対しては全国値を下回るという結果になっています。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問では肯定的回答で全国値を下回りました。特に積極的な「そう思う」という回答が少なかったのが気にかかります。

〔生活の様子〕

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問に対しては肯定的な答えが全国値をやや上回りました。規則正しい生活を送っていると考えてもよいのではないのでしょうか。

〔家庭学習について〕

「家で宿題をしますか」という設問に対しては肯定的回答が100%で全国値をやや上回りましたが「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という設問になると全国値を下回っています。「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という設問に対しては1時間以内という回答が全国値を上回り、学習時間の少なさが目立ちました。もちろん大事なものは「時間」ではなく「内容」ですが、

少し気にかかるところです。また1日の読書時間も全国値を下回っています。

〔教科の学習について〕

算数の学習に関する設問で「算数の勉強は好きですか」「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」ではいずれも全国値をやや上回っています。学びあうスタイルでの学習が定着してきたことがこの結果につながっているものと思われます。



(5) 今後の取り組みについて

■ 学校として取り組んでいくこと

次期学習指導要領でも中心的なテーマとなる「主体的で対話的な深い学び」を先行的に実施する形で本校では「学び合い」の学習スタイルによる授業を進め、研究活動も行っています。今回の学力学習状況調査では少しずつではありますが、その結果が表れてきています。今後もこのようなスタイルの学習とスモールステッププリントのような基礎基本の定着をめざした学習を織り交ぜて授業づくりをしていきたいと考えています。

一方、課題として浮かび上がったのは「資料を活用する」「根拠を示す」「文章で考えをまとめる」というような力です。これは国語に限らず、算数でも理科でも明らかになっています。今後「主体的で対話的な深い学び」を追求していく中でこれらの課題を克服していけるような授業場面を設定し、取り組んでいきたいと考えています。

■ ご家庭で取り組んでいただきたいこと

ご家庭にお願いしたいこととしては、学校からの課題として出している「自主学ノート」の取り組みなどで子どもたちが自分の関心に従って積極的に調べたり学習を深く掘り下げたりすることを応援していただくというようなことです。中にはテーマ設定に悩むお子さんもいらっしゃると思いますが、ヒントになるようなものを与えていただけるとありがたいです。

また、家庭全体で「学ぶ雰囲気づくり」をしていただくことも大きな効果があります。例えば7時30分から8時30分までは、TVやゲームをつけないで家族全員が新聞や本を静かに読むといった時間を作るといったことです。平日の夕食後は忙しくバタバタしてしまうことであれば週末だけでも構いません。よろしければ一度お試しください。また、新聞やニュースで取り上げられる世の中の動きなどについて、お子さんに説明したうえで「あなたはどう思う？」と聞いてみたり「なぜこれに賛成(反対)する人がいると思う？」などと意見を聞いてみることもとても良い勉強になります。

吹田市教育委員会でも「平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要」が吹田市ホームページを通じて発表されております。ぜひご覧ください。

[吹田市トップページ](#) → [部課組織一覧](#) → [学校教育部](#) → [指導室](#) → [メニュー](#)